

金属ひび割れ修理早く

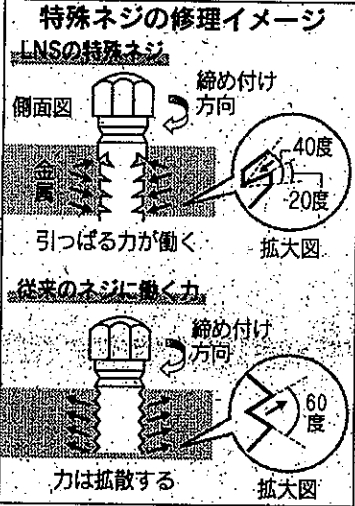
新工法、低コストもPR

溶接せず独自のネジ駆使

ロックンステッチジャパン(新潟市、池田信義社長)は、鋳物など金属のひび割れを修理する独自の工法を本格展開する。プラントや発電機部材など大型機械のひび割れを特殊なネジと部材でつなぎとめる工法で、工期短縮やコスト低減につながる。セメントや製鉄所プラント、大型船舶修理などに採用を訴えている。初年度は一億円の受注を見込んでいる。

ロックンステッチ社

LNS工法という名称で、特殊ネジと部材でひび割れを縫うようにつなぎとめていく。通常のネジは挿入すると周辺部分を押し出す力が働く。LNSで使う特殊ネジはネジ山が斜め上に刻まれており、挿入すると周辺を引っ張る力が働く。この特殊ネジでひび割れ部分を縫うように留めていく。気密性と強度を高める



特殊ネジを使ったLNS工法の施工例

ため、ロックと呼ぶ金属部材をひび割れ面に垂直に打ち込んでいく。同社の試験では一平方センチあたり二百キログラムの圧力にも耐えられるという。金属のひび割れ補修法としては溶接が一般的。火を使うため熱で素材が変形し、修正する手間がかかった。エンジン部品の場合は油へ引火する懸念もあった。LNSは火を使わないため、安全に作業できる。工期も従来の三分の一から半分になる。

今年五月から本格的に営業を開始、これまでに国内のセメント会社、製鉄所など十五件採用されている。海外に日本企業が納入したプラントの補修依頼も増えている。インドネシアで日本企業が納入した射出成型機の修理を手がけたほか、来月以降もシンガポールやマレーシアで修理依頼があるという。

田信義社長)の一〇〇%という機運が高まっている(池田社長)として、米国で一九九八年に生まれ、LNSに着目し、二〇〇四年八月にロックンステッチジャパンを設立、日本総代理店となった。国内外のプラントで「大型設備を長く使おう

乗せを狙う。」という機運が高まっている(池田社長)として、新工法の二、三倍は高いとみている。自社以外の施工スタッフを増やすため、国内で代理店も募集していく。初年度は一億円の受注が固まってお